

中国製冷凍餃子の中毒事件にたいする認識と当面の方針

2008年2月6～7日 生協労連第400回中央執行委員会

1月30日に明らかになった農薬メタミドホスによる「中国製冷凍餃子の中毒事件」は、日本全国に激震が走りました。生協労連中央執行委員会は、被害にあわれたご家族のみなさんに、心からのお見舞いを申し上げます。

事件発生以来、ちばコープ・日本生協連をはじめとして全国の生協では、被害にあわれたご家族の方々へのお詫びと誠実な対応、被害の拡大防止を最優先しての消費者（生協組合員）への説明と対応、情報の公開、検査体制の強化など誠実に実行してきています。初期段階での対応の遅れや情報の不徹底などが一部で指摘されていますが、全国の生協では精一杯の対応をすすめてきています。

全国の生協労働者は昼夜を分かたず、消費者（生協組合員）の怒りや苦情を受け止めながら、真摯な対応をすすめています。奮闘している労働者に寄り添い、相互に激励しあうことができるよう、各地の労働組合の努力がすすめられています。生協労連中央執行委員会は、全国の生協労働者の奮闘にたいして、心からの敬意と激励を表明します。

しかし、この事件の原因と真相はまだ特定されておらず、原因究明の最中にあります。千葉・兵庫・大阪の警察が合同捜査本部を設け、殺人未遂事件としての捜査を開始しています。日本政府も中国政府と連携し、「天洋食品」への調査団を派遣しました。さらに2月5日には、高濃度の農薬ジクロロボスの検出が発表され、より事態を深刻化しています。

生協労連では1月31日に桑田委員長名で、①生協理事会による生協組合員への対応への要望、②現場と職員に対する生協理事会の対応、③情報収集と生協労連への情報集約を、全国の単組ですすめることを要請とした『中国製冷凍餃子中毒事件』における当面の対応について」を発信しました。その後いくつかの生協労組で、職場のなかまを励まし、理事会の敏速な対応を要請する見解・声明を出しています。

生協労連中央執行委員会は、この事件を日本の食の安全にたいする重大な問題として認識し、食の安全・安心の確立に向けて全力をあげることを表明します。食の安全の確立、日本の食料自給率の引き上げ、日本の農業を守る運動への前進に向けた方針の確立と具体化をはかります。あわせて事態の進捗について判断しながら、この事件の背景と本格的な問題解決をはかるための政策づくりに着手します。

そうした認識と姿勢にもとづいて、生協労連と全国の労働組合で以下の事項をとりくむことを当面の方針とします。

1. 政府への要請をすすめます

- (1) この事件の早期の原因究明と真相究明を、中国政府と連携して実現すること、その解決に向けて徹底した情報公開を求めます。
- (2) 食の安全確保に向け、水際での検査内容の高度化と防疫体制の強化を求めます。
- (3) 61%を海外に依存するという国際的に異常な食料自給率を向上させていく政策への転換を求めます。
- (4) 国民の被害を最小限に食い止め、再発を防止するという視点から、国と行政の危機管理体制の強化を求めます。

2. 生協の社会的役割の強化を要請します

- (1) 生協としての政府に原因究明を要請するとともに、消費者（生協組合員）、社会にたいして徹底した情報公開をすすめることを要請します。
- (2) 委託・派遣労働者も含めて生協で働く労働者にたいして、情報公開を徹底することを要請します。
- (3) 食の安全についての検査・チェック体制についての点検と改善をすすめることを要請します。
- (4) 生協労連として、日本生協連との情報交換、意見交換を強化します。

3. いまこそ労働組合の役割を發揮しましょう

- (1) 奮闘している職場の労働者の声を集約し、理事会にたいして説明と必要な改善を求めましょう。春闘要求論議と結合してとりくみをすすめましょう。
- (2) 労働組合としても、委託・派遣労働者も含めて生協で働く労働者にたいして、徹底した情報公開をすすめましょう。
- (3) 対応に追われる職場の労働者の労働実態に留意し、理事会にたいして必要な対策を要請しましょう。
- (4) 生協労連として、全国の生協労働者と労働組合、全国の生協からの情報などの収集を徹底して強め、全国への発信をすすめます。

以上